

ネットワークボード

「居住支援付き住宅」という仕組みを聞いたことはあるでしょうか。法的に決まった概念があるスタイルではありませんが、簡単に言うと、ひとり暮らしをしたいと願う障がいのある人が、不動産会社や福祉事業者と連携しながら、安心して希望の地域で暮らし続けられるように支える仕組みです。住まい方や将来的なお金の話など、様々な情報を提供している「一般社団法人障害のある子のライフプランサポート協会」では、この居住支援付き住宅に早くから取り組んで来た(株)ふくしねっと工場の友野代表を迎えて勉強会を企画しているそうです。興味のある方はぜひ! (編集部)

【オンラインセミナー】

「居住支援付き住宅」という選択肢

～ふくしねっと工房・友野剛行さんと考える、

障害のある人の自立生活に必要なこと～

5月25日(日) 17:00-18:30

<https://peatix.com/event/4396457/view>

※受講料 1,800円 ▲お申込みは上記まで

※オンラインコミュニケーションツール Zoom

- ・わが子が「親なきあと」も、地域で安心して暮らしていけるか心配な方
 - ・「居住支援付き住宅」について、詳しく知りたい親・支援者の方
 - ・障害のある子の自立のために、親や支援者はどうすればいいのか学びたい方
- 後日記録動画の配信を予定しているそうです。当日参加できない方もぜひ!



編集後記



先日人材定着に関するセミナーを受講し、介護、看護、保育業界で今何が起きているのか、その定着に向けて組織はどう取り組んでいくかについてお話を伺いました。ぱれっとにも当てはまることばかりで、大変勉強になりました。ゴールデンウィーク明けに「退職代行サービス」が1年でもっとも忙しいという報道もあって、人材定着は全産業にわたって大きな課題になっていますが、特に福祉の業界では一般の賃金アップに国の報酬改定が追いついておらず、必要不可欠な仕事でありながらその待遇は未だ改善の途上であるという指摘がありました。業界も物価の高騰にリアルタイムに連動した報酬改定を求める声が大きくなっています。一方当事者の暮らしに目を向けると、特に大都市圏では、年金と作業工賃を合わせてもグループホームにかかる費用に届かないケースが多く、基本的な経済的持続性に難があるというのが現在の状況です。国は、作業工賃のアップを目指し、実績に応じた報酬アップを設定していますが、現場では果たしてどこまでその要求に応え続けられるのか、悩み多き試行錯誤が続いています。

今回の特集にもあるように4月26日に「説明会&意見交換会」を開き、この1年間主に職員の労働環境整備を中心に取り組んできたことを会員の皆様にご説明する機会を設けました。待遇面に関しては国の制度が一律であるため大きな差別化が図れない中、会場からは「風通し」というワードがたくさん出されました。私的には、中でも「自分の風通しを良くする」というメッセージが印象に残りました。冒頭のセミナーでも職員個々の自己実現を職場がどう体系的にフォローしていくかが取り組みの柱であるという指摘もあり、今後の取り組みのヒントになりました。(みなみやま)